平成30年度

環境経営レポート

～未来のこどもたちのために～

エコアクション21
認証番号0007445

～有田川町消防団協力事業所認定表示証交付式にて～

環境コミュニケーション大賞 2017 優良賞 環境活動レポート部門
環境コミュニケーション大賞 2019 優良賞 環境経営レポート部門
環境コミュニケーション大賞 2021 優良賞 環境経営レポート部門

活動期間：平成30年10月～令和元年9月
作成日：令和2年7月31日
更新日：令和3年3月27日

株式会社 坂口製作所

目次

●会社概要・・・

会社概要

〇事業者名：株式会社 坂口製作所

〇代表者名：代表取締役社長　坂口清信

〇所在地

★本社
〒557-0054
大阪市西成区千本中２丁目４番１４号

従業員数：9名、敷地面積：553㎡

★和歌山工場
〒643-0521
和歌山県有田郡有田川町清水877番地の1

従業員数：72名、敷地面積：11,200㎡

〇事業年度：10月～9月

〇事業規模：製品出荷額　11億円/年

〇事業内容：工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計、開発、製造、加工及び販売

〇主要製品：鉄道車輌部品、信号器具箱、工業用各種トレー、空調関連機器等

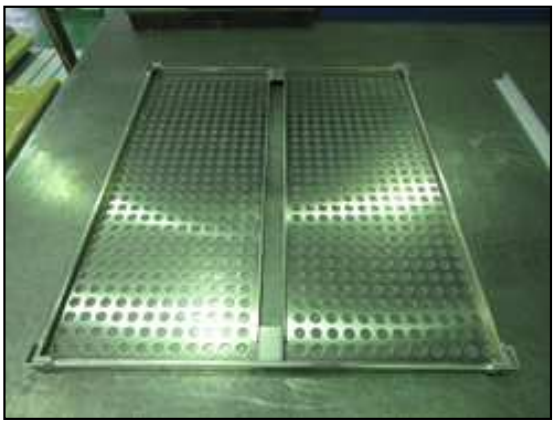
○主要製品の紹介

弊社は完全受注型の生産方式、主に鉄道車輌関係の部品や鉄道の踏切や線路脇に設置される信号器具箱、製品の滅菌処理で使用される工業用アルミトレー、選挙で使用される投票箱など、多種多様に渡る製品を製作しています。

　また、弊社独自の自由設計が可能なクリーンブースの製造技術を活用した応接室や喫煙室などを社内に設置しています。

＜鉄道車輌関係＞

＜信号器具箱＞



＜工業用アルミトレー＞

＜投票箱＞

＜クリーンブースの製造技術を活用した応接室（上左：和歌山工場内）と
屋内型喫煙室（上右写真：本社）＞

環境経営方針

○環境経営理念

当社は工業用各種アルミ・ステンレス製品の設計・製造・加工・販売を行っている会社です。アルミ、ステンレスはいずれも高い耐食性とリサイクル性を有する素材であり、又軽量なアルミには省エネ効果も期待できます。つまりアルミ・ステンレスは循環型社会、低炭素社会を実現する上で無くてはならない素材であり、鉄道車輌、製薬、エネルギー等あらゆる産業分野において、今後その需要が益々拡大していくことは間違いありません。これら社会の要請に応え、同素材からなる製品の普及・発展に寄与し、もって持続可能な社会の実現に貢献することは、アルミ・ステンレス加工のプロたる当社の責務であると考えます。

この責務を果たすには、当然ながら当社自身が維持・発展していくことが不可欠です。一方、当社が生産活動を進めていく上で、電力等のエネルギーの消費、廃棄物の発生は避けて通ることはできません。したがって当社は、売上拡大を目指しつつも同時に生産効率の向上と品質管理の徹底によりエネルギー使用量の原単位を下げ、廃棄物の発生量を極限まで低減する必要があります。

以上のことから当社は、以下の項目を重点課題と捉え、全社一丸となってこれらの課題を高いレベルでクリアしつつ、更なるレベルアップを継続的に推進することを、ここに宣言します。

○環境経営目標

1．環境法規制や当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
2．単位売上あたりの電力・化石燃料使用量を低減し、二酸化炭素排出量の削減を進めます。
3．一般及び産業廃棄物の削減を進めます。
4．排水量の削減を進めます。
5．地域ボランティア活動への協力等を通じて、地域社会とともに環境保全に取り組みます。
6．グリーン購入を計画的に進めます。
7．化学物質については法令を遵守し、適正に管理します。
8．製品への環境配慮を進めます。

制定日：平成22年11月4日
改定日：平成30年9月29日
代表取締役社長：坂口　清信

○SDGsへの取り組み

弊社のホームページ「https//sakaguchi-ss.co.jp/」にてSDGsの取り組み紹介ページを作成しました。トップページからは会社概要の中にある「SDGsへの取り組み」、またはトップページ下、弊社の取り組みよりアクセスいただます。ぜひ、ご覧ください。

なお、外務省のホームページからも閲覧できるよう登録申請中です。

○SDGsの進め方

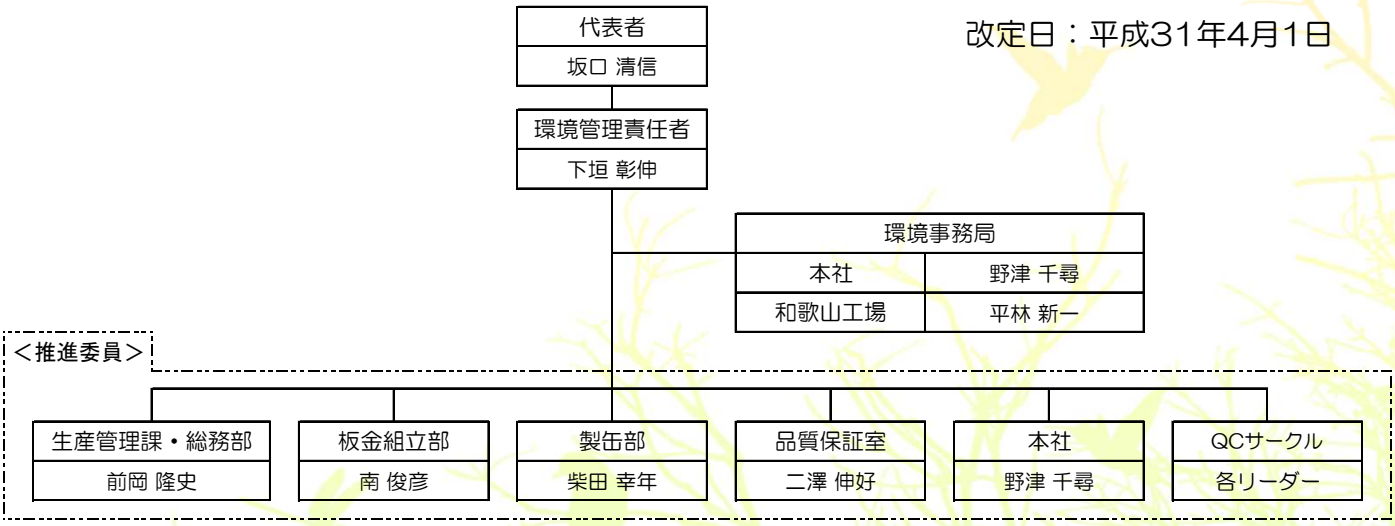
弊社は2011年にエコアクション21の認証を受けました。以降、環境に関する取り組みを継続しており、2017年と2019年には環境コミュニケーション大賞で優良賞を頂きました。

また、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業の法人を顕彰する制度「健康経営優良法人」の認定取得にも取り組んでおり、2018年、2019年と２年連続で同認定を受けています。

私たちは、これらエコアクション21、健康経営優良法人の取り組みとリンクさせる形でSDGsへの取り組みを進めています。

実施体制図

改定日：平成31年4月1日



○弊社は、推進委員会を設け全社員一体となってエコアクション活動を進めています。
○各部門の部門長は、定例会議(製販会議、工程会議、安全衛生委員会)においてエコアクション活動の進捗を確認しています。
○各QCサークルのリーダーは、自サークル及びリーダー会でエコアクション活動を推進しています。

平成29年度総括と今後3ヵ年の目標設定

●環境経営目標及びその実績

○平成29年度の活動結果は全13管理項目うち10項目で目標未達でした。本来なら目標達成出来なかった項目は再調整すべきと考えますが、あえて削減比率は変更せず評価基準の指標単位を見直し、エコアクション活動の発展と社員の意識向上を目指すため、平成27年度を基準年度とした新たな今後3ヵ年の目標を設定しました。

★低炭素社会の実現に向けて

項目		年度	基準年度（平成27年度）実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	令和元年度目標	令和2度目標
二酸化炭素排出量削減	電力使用量の削減（kWh/百万円）		733.5	715.2	704.2	606.3	696.8	689.5
		絶対量（kWh）	714,999	814,672	686,399	722,506	679,249	672,099
		基準年度比	100%	-2.5%	-4.0%	-17.3%	-5.0%	-6.0%
		① kg-CO_2	450,138	513,171	432,132	454,945.4	427,631	423,129
	化石燃料の削減	○ガソリンの使用量削減（L）	12,281.9	12,743.5	11,790.6	11,413.3	11,687.8	11,545.0
		基準年度比	100%	103.8%	-4.0%	-7.1%	-5.0%	-6.0%
		② kg-CO_2	28,514	29,586	27,374	26,497.7	27,089	26,804
		○軽油の使用量削減（L）	3,311	4,388	3,178	3,195	3,145	3,112
		基準年度比	100%	132.5%	-4.0%	-3.5%	-5.0%	-6.0%
		③ kg-CO_2	8,689	11,516	8,341	8,385.5	8,254	8,167
		○灯油の使用量削減（L/1000h）	421.4	526.6	404.5	430.4	400.3	396.1
		絶対量（L）	21,919.0	25,337	21,042.2	21,715.3	20,823.1	20,606.8
		基準年度比	100%	125.0%	-4.0%	102.1%	-5.0%	-6.0%
		④ kg-CO_2	54,621	71,529	52,436	54,113	51,890	51,343
		①+②+③+④ kg-CO_2	541,962	625,802	520,283	543,941.7	514,864	509,443
		基準年度比	100%	115.5%	-4.0%	100.4%	-5.0%	-6.0%
排水量の削減		○水道水の使用量削減（m^3/1000h）	4.73	5.24	4.54	5.50	4.49	4.45
		絶対量（m^3）	832	911	799	902	790	782
		基準年度比	100%	110.8%	-4.0%	116.3%	-5.0%	-6.0%
化学物質の削減		○化学物質の使用量削減（kg）	477	504.6	457.9	305.1	453.2	448.4
		基準年度比	100%	105.8%	-4.0%	-36.0%	-5.0%	-6.0%

※各項目の評価基準について

○電力使用量は本社及び和歌山工場の使用量を合計し、売上百万円当たりで評価します。
○ガソリン使用量は、本社及び和歌山工場の使用量を合計し絶対量で評価します。
○軽油の使用量は、和歌山工場の使用量を絶対量で評価します。
○灯油の使用量は、和歌山工場の12月から3月まで4ヶ月間の使用量を同4ヶ月間の就業時間千時間当たりで評価します。年間使用量は通年の使用量とします。
○二酸化炭素排出量は、下記排出係数にて各項目の絶対量を計算し評価します。
- 電力における二酸化炭素排出係数は本社では0.509kg-CO2/kWhを。和歌山工場では、0.634kg-CO2/kWhを使用し算出します。
- ガソリンの排出係数は、絶対量(L)×0.0671(kg-CO2)×34.6(MJ/L)で算出します。
- 軽油の排出係数は、絶対量(L)×0.0687(kg-CO2)×38.2(MJ/L)で算出します。
- 灯油の排出係数は、絶対量(L)×0.0679(kg-CO2)×36.7(MJ/L)で算出します。

○水道水は、本社及び和歌山工場の使用量を合計し就業時間1000時間当たりで評価します。
○化学物質は、和歌山工場で使用している油脂洗浄剤に含まれるトルエンの使用量を指し絶対量で評価します。
○売上百万円当たり及び就業時間1000時間当たりで評価する各項目の年間使用量は、通年の使用量とします。

★循環型社会の実現に向けて

項目	年度	基準年度（平成27年度）実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成30年度実績	令和元年度目標	令和2度目標
廃棄物の削減	○可燃ごみの排出量削減（kg）	3,366	2,811	3,231	3,811.6	3,198	3,164
	基準年度比	100%	-16.5%	-4.0%	113.2%	-5.0%	-6.0%
	○混合廃棄物の排出量削減（m^3/百万円）	1.04	1.50	1.00	0.51	0.99	0.98
	絶対量（kg）	1010	1250	970	610	960	949
	基準年度比	100%	144.2%	-4.0%	-51.0%	-5.0%	-6.0%
	○廃プラスチックの排出量削減（%）	89.9	73.1	93.5	91.2	94.4	95.3
	絶対量：排出量（kg）	186	741	―	175	―	―
	絶対量：回収量（kg）	1651	2015	―	1805	―	―
	基準年度比	100%	81.3%	104.0%	101.4%	105.0%	106.0%
剰余材の有効利用	○再加工材料費の削減（金額指標）	100	172.8	47.1	208.7	47.1	47.1
	基準年度比	100%	172.8%	-52.9%	208.7%	-52.9%	-52.9%
製品への環境配慮の推進	○梱包資材の購入量削減（kg/百万円）	2.66	2.31	2.55	1.78	2.53	2.50
	絶対量（kg）	2,589	2,626	2,485	2,125.3	2,459	2,434
	基準年度比	100%	-13.2%	-4.0%	-33.1%	-5.0%	-6.0%
	○グリーン購入金額比率の向上（%）	64.6	61.6	55以上	71.5	55以上	55以上
	基準年度比	100	-4.6%	―	110.70%	―	―

※各項目の評価基準について

○一般廃棄物とは、和歌山工場では製作図面等のシュレッダーくずや一般的な燃えるごみ、本社では業者に回収されているシュレッダーくずを含まない一般的な燃えるごみを指し、それぞれ合計し絶対量で評価します。

○混合廃棄物とは、和歌山工場から排出され安定型最終処分場で埋立処分される産業廃棄物を指し、売上百万円当たりで評価します。年間排出量は、通年の排出量とします。

○廃プラスチックとは、和歌山工場から排出される廃プラスチック排出量に対するリサイクル量（回収量）の比率を再利用率として評価し、年間排出量及び回収量は、通年の量とします。

○再加工材料費とは、本来なら必要としない再加工による材料費を指します。評価方法は、環境経営計画書では金額で評価していますが、環境経営レポートは基準年度比の金額指標としています

○梱包資材購入量とは、和歌山工場において梱包時に使用するエアーキャップやストレッチフィルムの購入量を指し、売上百万円当たりで評価します。年間購入量は、通年の購入量とします。

○グリーン購入比率とは、本社及び和歌山工場で購入する資材類のうち、事務用品の購入を対象とし購入総額に対する環境対応商品の購入割合を指し、金額指標で評価します。

以上のように３ヶ年計画を再策定しましたが、弊社は完全受注生産方式なので当初想定していた以上に受注量や短納期対応件数が増加した場合は、やむを得ず目標達成が出来ない項目が生じる恐れがあります。最終結果で目標が達成出来なかった場合は、原因を把握し次年度以降の計画を見直します。

弊社では、本社と和歌山工場における設備の違いからそれぞれの目標を設定し活動しています。次ページより、各項目における本社の活動成果、和歌山工場の活動成果から事業所全体の活動成果を評価します。

平成30年度環境経営計画の取組結果とその評価

●電力使用量の削減

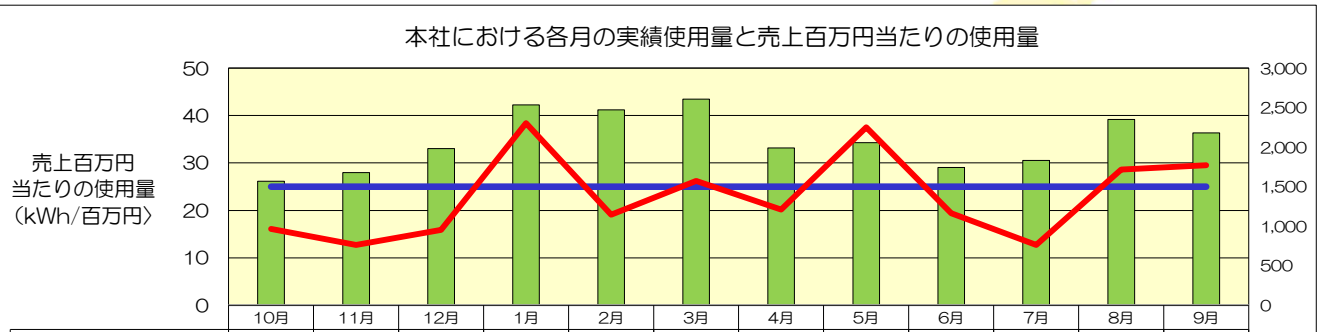
※評価基準：売上げ百万円当たりの使用量（kWh/百万円）

★環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

1. 西日対策による夏期冷房温度の抑制
2. 空調温度の最適化推進
3. エリア別照明点灯及び場内照明の間引き点灯推進
4. 未使用パソコンの電源オフ徹底

1）本社の活動結果について

今年度目標：25.0　→　今年度実績：21.0　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(kWh)	1,567	1,677	1,982	2,534	2,472	2,607	1,989	2,056	1,742	1,831	2,350	2,180
目標値(kWh/百万円)	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0
kWh/百万円	16.1	12.7	15.9	38.4	19.1	26.2	20.2	37.5	19.4	12.7	28.6	29.5

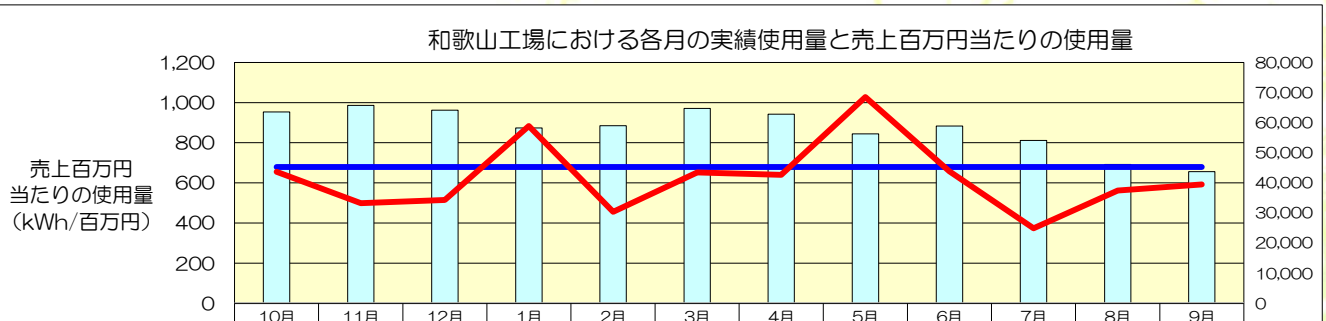
本社は営業拠点として主に事務的な作業をしています。屋内では過去に窓の遮光フィルムを設置し、西日対策による夏期冷房温度の抑制や空調温度の最適化など設備による節電とクールビズやウォームビズなど体感による温度も調整し電力使用量削減対策を実践しています。

今年度の結果ですが、節電対策を実践しましたが累積使用量は目標値より102.6%増加しました。増加の要因は、新たに新入社員２名を迎え新規にパソコンを導入したことが考えられます。しかし、売上が増加したため売上百万円当たりに換算した使用量は21.0と目標値に対し84%まで抑制でき目標達成出来ました。来年度は照明のLED化を検討し使用量削減に努めます。

※左記写真は当時の遮光フィルム設置工事です。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：679.1　→　今年度実績：585.3　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(kWh)	63,580	65,780	64,138	58,232	59,026	64,759	62,857	56,305	58,914	54,080	46,110	43,738
目標値(kWh/百万円)	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1	679.1
kWh/百万円	655.2	498.6	514.3	883.1	455.5	652.0	639.9	1028.0	657.2	373.9	561.9	592.2

＜ティグ溶接＞

和歌山工場は、弊社の生産拠点でありレーザー切断加工機やNCターレットパンチプレス機等の板金加工機械やティグ溶接機やミグ溶接機を多数完備しています。仕事量が増加すると設備の稼働時間も増加するため、電力使用量は増加する傾向にあります。

今年度最大のトピックスは場内の天井照明を全てLED照明に交換したことです。工事は７月に実施し、その後２ヶ月の実績使用量が交換前より8千～１万kWhも減少しました。

今年度の累積使用量は、例年よりも仕事量が増加したため目標値に対し105.4%も増加しましたが、売上が増加したことで売上百万円当たりの使用量は585.3と目標値に対し86.2%まで抑制でき目標達成出来ました。

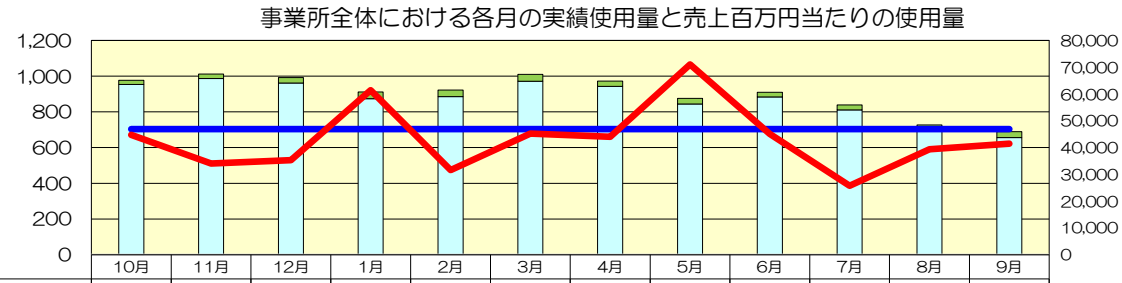
＜従来の天井照明＞

７月に交換

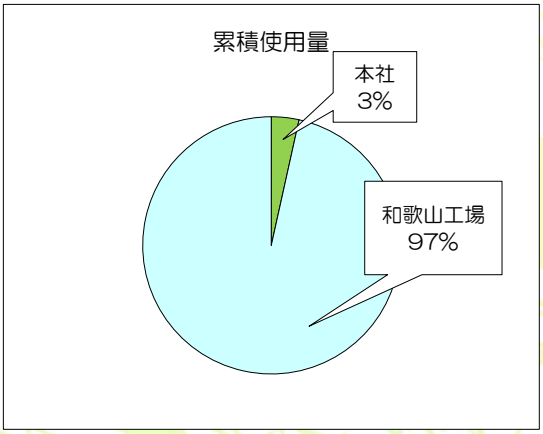
＜LED照明＞

３）事業所全体の活動結果について

今年度目標：704.2　→　今年度実績：606.3　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社実績使用量(kWh)	1,567	1,677	1,982	2,534	2,472	2,607	1,989	2,056	1,742	1,831	2,350	2,180
和歌山工場実績使用量(kWh)	63,580	65,780	64,138	58,232	59,026	64,759	62,857	56,305	58,914	54,080	46,110	43,738
目標値(kWh/百万円)	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2	704.2
kWh/百万円	671.3	511.3	530.2	921.5	474.6	678.2	660.2	1065.5	676.6	386.5	590.5	621.7



今年度の実績使用量は本社及び和歌山工場とも目標値より増加したことで、事業所全体の実績使用量は目標値に対し105.2%の増加となりました。しかし、今年度7月、和歌山工場において場内の天井照明をLED照明に交換したことで8月～9月の使用量が従来に比べ目に見えて減少しました。これはエコアクション活動開始以来、最大の出来事でした。

事業所全体における使用量の割合は、本社が全体の3%和歌山工場が97%を占めていました。なお、売上げ百万円当たりの使用量は、売上げが増加したことで目標値に対し86.1%まで抑制でき目標達成となりました。

来年度は通年での削減効果を検証します。

●ガソリン使用量の削減

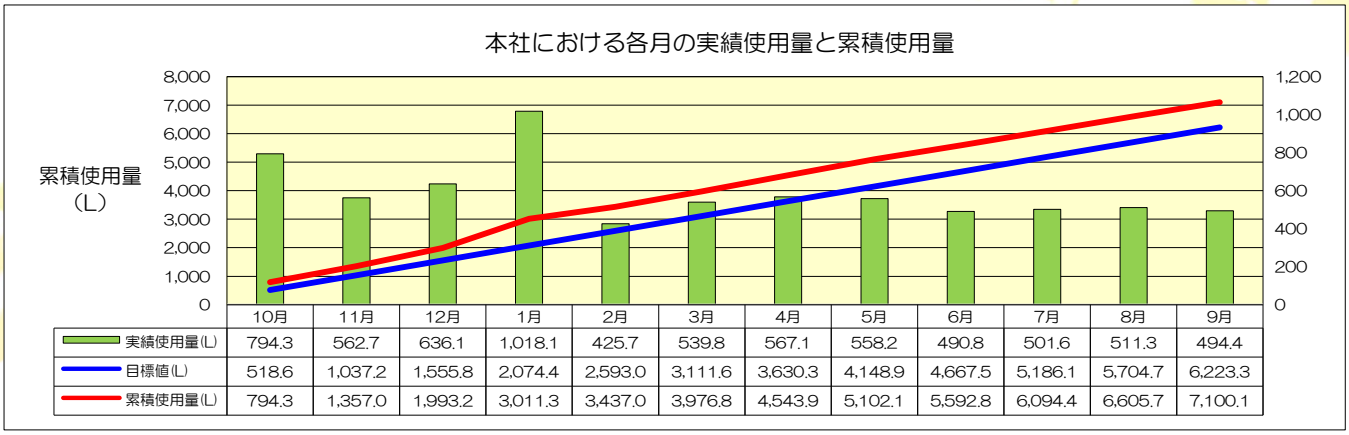
※評価基準：実績使用量（L）

★環境活動計画（本社、和歌山工場共通）

1. エコドライブの推進
2. 外出時、可能な範囲での乗合せ
3. 公共交通機関の利用促進

1）本社の活動結果について

今年度目標：6,223.3　→　今年度実績：7,100.1　　結果：目標未達成



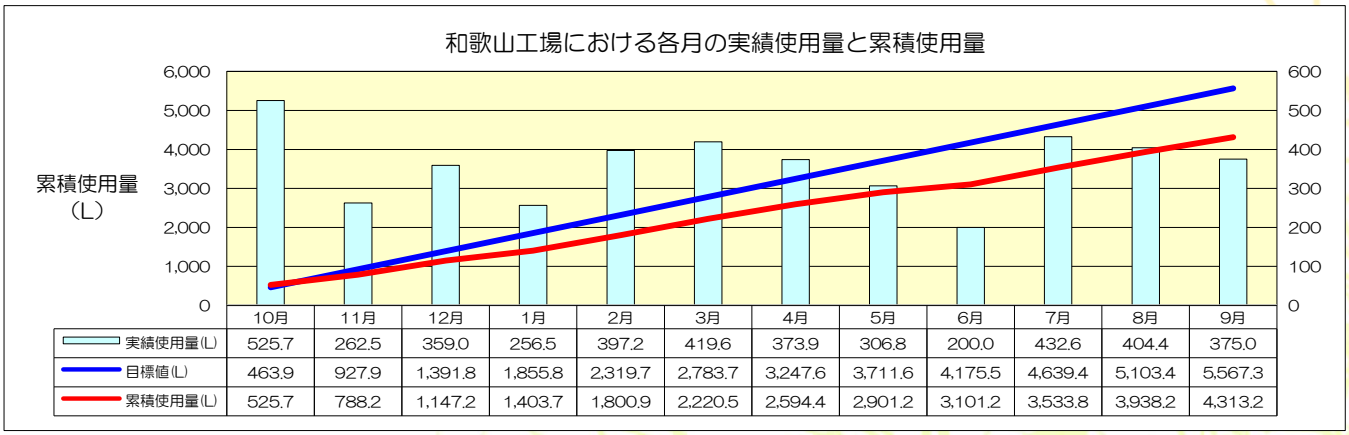
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(L)	794.3	562.7	636.1	1,018.1	425.7	539.8	567.1	558.2	490.8	501.6	511.3	494.4
目標値(L)	518.6	1,037.2	1,555.8	2,074.4	2,593.0	3,111.6	3,630.3	4,148.9	4,667.5	5,186.1	5,704.7	6,223.3
累積使用量(L)	794.3	1,357.0	1,993.2	3,011.3	3,437.0	3,976.8	4,543.9	5,102.1	5,592.8	6,094.4	6,605.7	7,100.1

本社は、営業活動において公共交通機関を可能な限り利用するよう推進していますが、お客様への訪問時は手荷物として持運べないサイズや量の製品の納入、引取りを伴うケースが多く社用車での移動は欠かせません。また、営業活動が活発になると必然としてガソリン使用量が増加するのも現状です。

このことから、今年度の累積使用量は目標値に対し114.1％も増加し目標未達成となりました。今後も引続きエコドライブや公共交通機関の利用を推進し使用量削減に努めます。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：5,567.3　→　今年度実績：4,313.2　　結果：目標達成!!



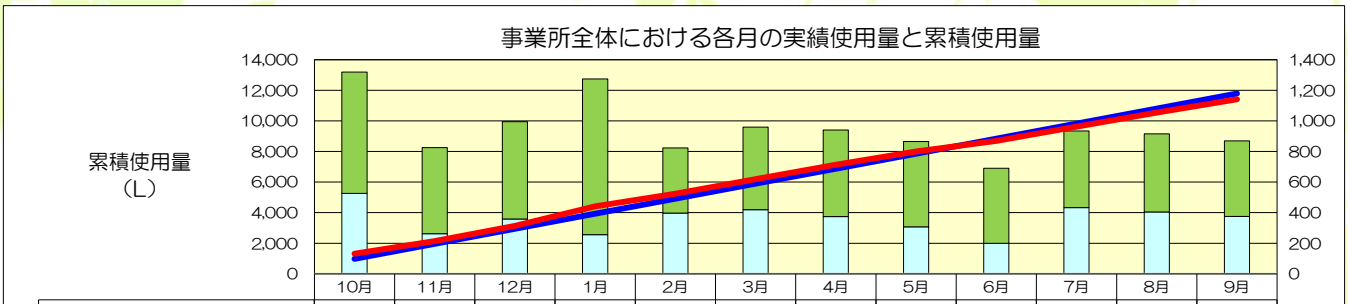
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(L)	525.7	262.5	359.0	256.5	397.2	419.6	373.9	306.8	200.0	432.6	404.4	375.0
目標値(L)	463.9	927.9	1,391.8	1,855.8	2,319.7	2,783.7	3,247.6	3,711.6	4,175.5	4,639.4	5,103.4	5,567.3
累積使用量(L)	525.7	788.2	1,147.2	1,403.7	1,800.9	2,220.5	2,594.4	2,901.2	3,101.2	3,533.8	3,938.2	4,313.2

＜低燃費車の導入＞

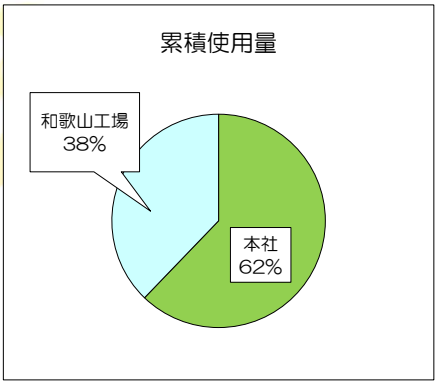
和歌山工場は和歌山県のほぼ中央に位置する有田川町東部の清水地区にあり、東西に流れる有田川の清流をはじめ豊かな自然に囲まれています。しかし工場から最寄りの駅や高速道路のICまでは40km弱の距離があり客先への訪問や出張時は社用車を利用しなければなりません。和歌山工場では、3台のガソリン仕様車を保有していますが、1台を低燃費車に変更しました。今年度は、低燃費車の導入やエコドライブの推進、外出時の可能な範囲での乗合せを推進した結果、目標値に対し77.5％まで削減でき目標達成となりました。今後も引続きエコドライブや公共交通機関の利用を推進し使用量削減に努めます。

３）事業所全体の活動結果について

今年度目標：11,790.6　→　今年度実績：11,413.3　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社の実績使用量(L)	794.3	562.7	636.1	1,018.1	425.7	539.8	567.1	558.2	490.8	501.6	511.3	494.4
和歌山工場のの実績使用量(L)	525.7	262.5	359.0	256.5	397.2	419.6	373.9	306.8	200.0	432.6	404.4	375.0
目標値(L)	982.6	1,965.1	2,947.7	3,930.2	4,912.8	5,895.3	6,877.9	7,860.4	8,843.0	9,825.5	10,808.	11,790.
累積使用量(L)	1,320.0	2,145.2	3,140.4	4,415.0	5,237.9	6,197.3	7,138.3	8,003.3	8,694.0	9,628.2	10,543.	11,413.



今年度の実績使用量は、個別の目標値に対し本社では約877L超過も、和歌山工場では約1,254Lも削減できたため、事業所全体での実績使用量は目標値の96.8%まで削減でき、目標達成となりました。

本社の使用量増加は、営業活動による社用車の使用機会の増加によるものと考えられます。結果として、今年度の売上は増加しました。和歌山工場では、お客様への訪問機会の集約や低燃費車の導入等の効果が表れ大幅な削減に繋がったと考えます。

なお、弊社のガソリン使用量は全体の62%を本社が占め電力とは逆の結果となりました。今後も引き続きエコドライブや公共交通機関の活用を推進します。

●軽油の使用量削減

※評価基準：実績使用量（L）

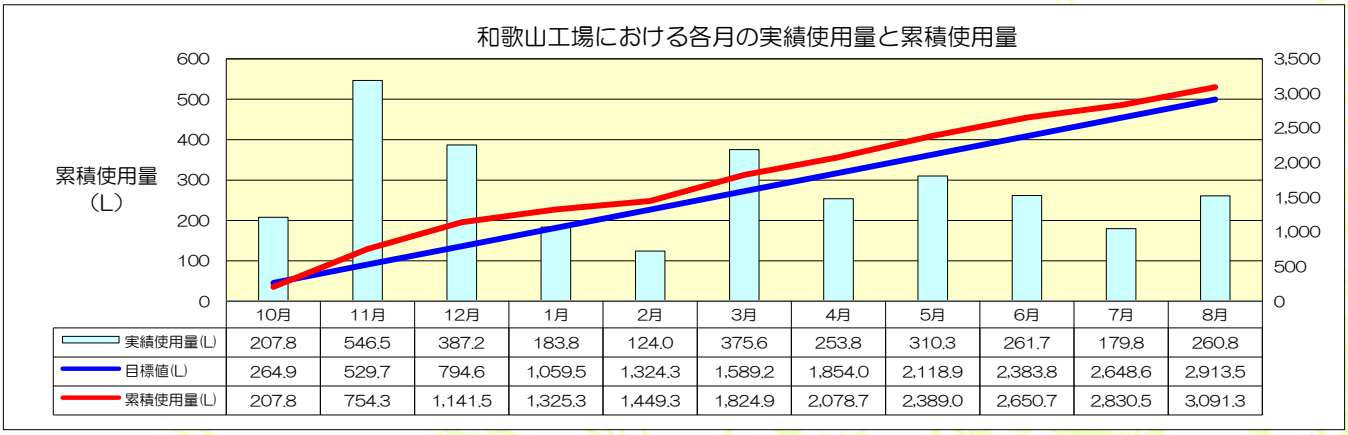
★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1．エコドライブの推進

2．外出時、可能な範囲での乗合せ

１）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：3,178.4　→　今年度実績：3,195.3　　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
実績使用量(L)	207.8	546.5	387.2	183.8	124.0	375.6	253.8	310.3	261.7	179.8	260.8
目標値(L)	264.9	529.7	794.6	1,059.5	1,324.3	1,589.2	1,854.0	2,118.9	2,383.8	2,648.6	2,913.5
累積使用量(L)	207.8	754.3	1,141.5	1,325.3	1,449.3	1,824.9	2,078.7	2,389.0	2,650.7	2,830.5	3,091.3

和歌山工場では2台の軽油仕様車を保有しており、２ｔトラックは、主に外注加工業者への部材搬入や加工後の引取などに活用しています。時にはお客様まで製品の納品にも活用し運送費のコストダウンを図っています。直接納品することで、お客様との打合せも出来るなど利点もあります。今年度の実績使用量は、現地での出張工事が多数あり使用機会が増加したことで目標値に対し100.5%と僅かに増加し目標未達成となりました。

●灯油の使用量削減

※評価基準：12月から3月の就業1000時間当たりの使用量（L/1000h）

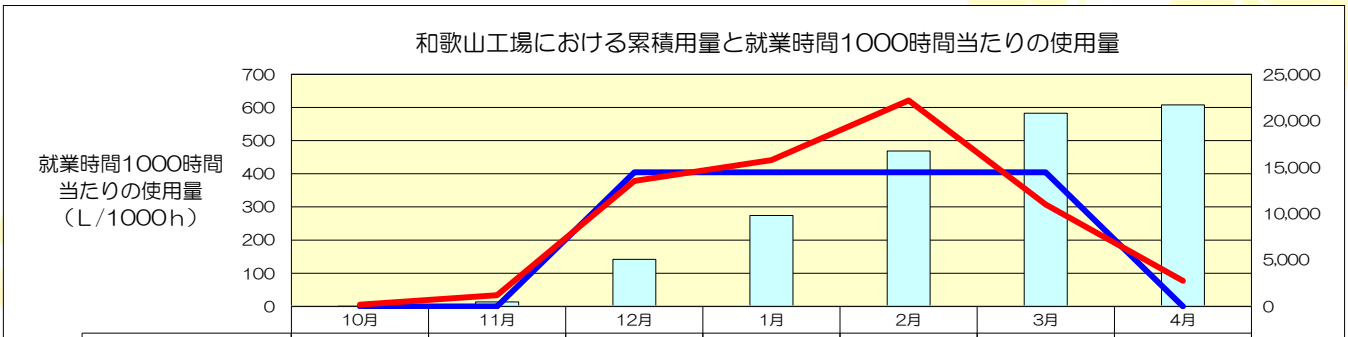
★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1．石油ストーブの使用基準の徹底

2．暖房機器の昼休み中における消火

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：404.5　→　今年度実績：430.4　　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
累積使用量(L)	71.4	499.7	5,072.4	9,795.6	16,743.1	20,815.1	21,715.3
目標値(L/1000h)	0.0	0.0	404.5	404.5	404.5	404.5	0.0
L/1000h	5.5	33.7	378.7	441.3	621.5	307.4	77.2

＜暖房機器＞

灯油は、和歌山工場において冬期に使用する暖房機器の燃料として使用しています。暖房機器の使用期間は11月から3月までの4ヶ月間としていますが、今年度は水洗浄した製品の乾燥を促進するため暖房機器の放射熱を使用したことにより、10月にも灯油の使用が発生しました。

今年度通年における実績使用量は、目標値に対し103.2%も増加、評価基準の12月から3月における就業時間1000時間当たりの使用量も、目標値に対し106.4%も増加し目標未達成となりました。冬期の和歌山工場は立地条件から、朝は気温が0℃を下回り霜が降りるほど寒さが厳しく、現場での作業は暖房機器が必要です。引き続き可能な限りのウォームビズを推進し使用量削減に努めます。

●二酸化炭素排出量の削減

※評価基準：実績排出量（kg-CO2）

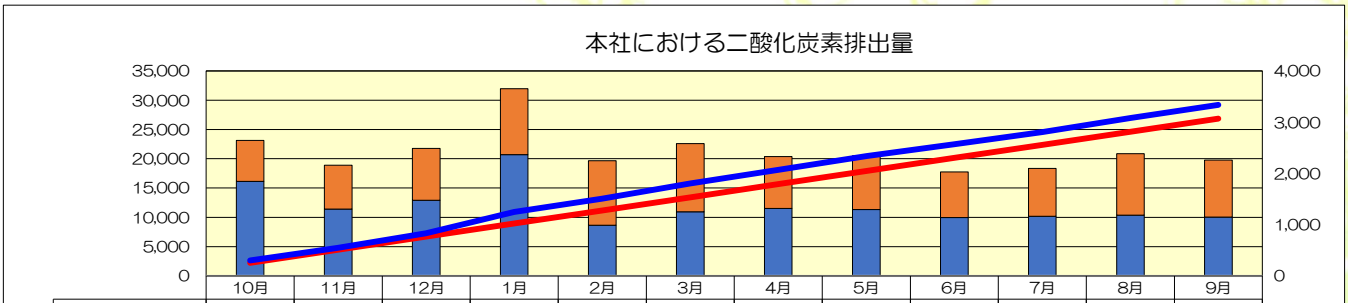
★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1．電力使用量の削減

2．化石燃料の使用量を削減

1）本社の活動結果について

今年度目標：26,847.1　→　今年度実績：29,202.3　　結果：目標未達成

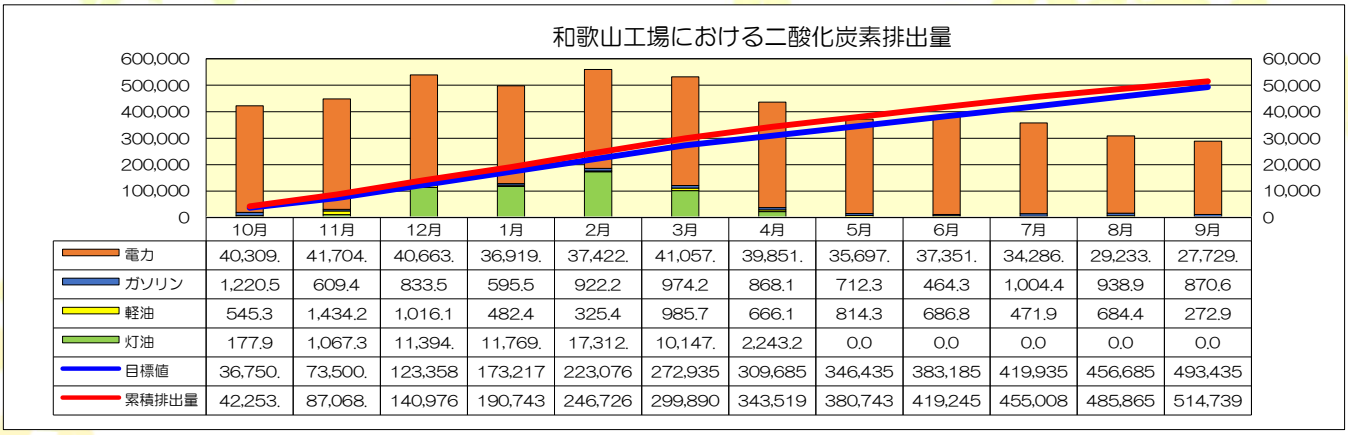


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
電力	797.6	853.6	1,008.8	1,289.8	1,258.2	1,327.0	1,012.4	1,046.5	886.7	932.0	1,196.2	1,109.6
ガソリン	1,844.1	1,306.4	1,476.9	2,363.7	988.4	1,253.2	1,316.6	1,296.0	1,139.4	1,164.5	1,187.0	1,147.7
目標値	2,237.3	4,474.5	6,711.8	8,949.0	11,186.3	13,423.6	15,660.8	17,898.1	20,135.3	22,372.6	24,609.9	26,847.1
累積排出量	2,641.7	4,801.8	7,287.5	10,941.0	13,187.7	15,767.8	18,096.8	20,439.3	22,465.3	24,561.8	26,945.0	29,202.3

本社では、電力使用量で評価基準に対し目標達成出来ましたが累積使用量では目標値より102.6%増加しました。ガソリン使用量でも、累積使用量が目標値に対し114.1%も増加したことで、目標値に対し108.8%も増加し目標未達成となりました。来年度は、照明のLED化や可能な限りでの公共交通機関の利用を推進し排出量削減を図ります。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：493,435.7　→　今年度実績：514,739.3　　結果：目標未達成

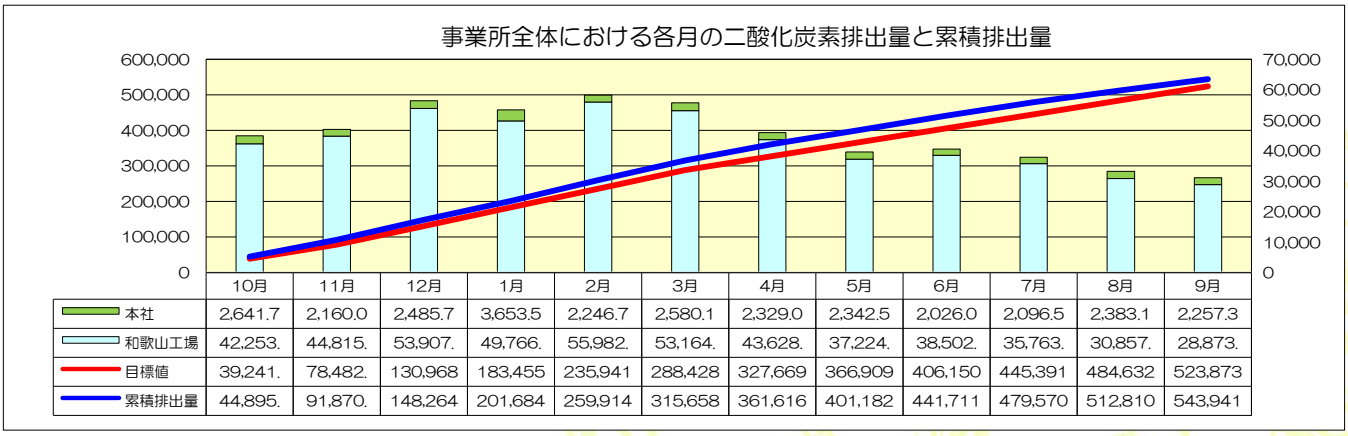


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
電力	40,309.	41,704.	40,663.	36,919.	37,422.	41,057.	39,851.	35,697.	37,351.	34,286.	29,233.	27,729.
ガソリン	1,220.5	609.4	833.5	595.5	922.2	974.2	868.1	712.3	464.3	1,004.4	938.9	870.6
軽油	545.3	1,434.2	1,016.1	482.4	325.4	985.7	666.1	814.3	686.8	471.9	684.4	272.9
灯油	177.9	1,067.3	11,394.	11,769.	17,312.	10,147.	2,243.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
目標値	36,750.	73,500.	123,358	173,217	223,076	272,935	309,685	346,435	383,185	419,935	456,685	493,435
累積排出量	42,253.	87,068.	140,976	190,743	246,726	299,890	343,519	380,743	419,245	455,008	485,865	514,739

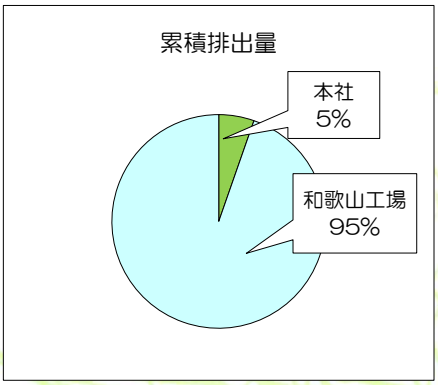
和歌山工場では、本社と同様に電力使用量で評価基準に対し目標達成出来ましたが累積使用量では目標値より105.4%も増加しました。一方、化石燃料の内、ガソリン使用量では目標値に対し77.5%まで削減できましたが、軽油の使用量では100.5%、灯油の使用量では103.2%とそれぞれ増加したため目標値に対し104.3%となり目標未達成となりました。今年度7月に和歌山工場において場内の照明を全てLED化を実現できたことで、来年度は通年通して大きな削減効果が期待できます。今後、各項目における活動計画を確実に実践し、日々の工程管理をしっかり行い更なる削減を目指します。

3）事業所全体の活動結果について

今年度目標：523,873.9　→　今年度実績：543,941.7　　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社	2,641.7	2,160.0	2,485.7	3,653.5	2,246.7	2,580.1	2,329.0	2,342.5	2,026.0	2,096.5	2,383.1	2,257.3
和歌山工場	42,253.	44,815.	53,907.	49,766.	55,982.	53,164.	43,628.	37,224.	38,502.	35,763.	30,857.	28,873.
目標値	39,241.	78,482.	130,968	183,455	235,941	288,428	327,669	366,909	406,150	445,391	484,632	523,873
累積排出量	44,895.	91,870.	148,264	201,684	259,914	315,658	361,616	401,182	441,711	479,570	512,810	543,941



今年度の実績排出量は、目標値に対し本社で108.8%、和歌山工場で104.3%とそれぞれ増加したことで事業所全体では103.8%の増加となり目標未達成となりました。事業所全体の排出量割合は、本社が5%、日々の生産活動に伴う排出により和歌山工場が95.%と大半を占めています。売上げが好調だったことから仕事量の増加が最大の要因と考えます。しかし、和歌山工場の天井照明をLEDに変更しとことで来年度は通年通して削減効果が期待できます。今後、本社を事業所全体における照明のLED化を促進し、エコドライブや低燃費車の導入など化石燃料の使用量削減に向けた取組を継続することで、二酸化炭素排出量の削減に努めます。

●水道水の使用量削減

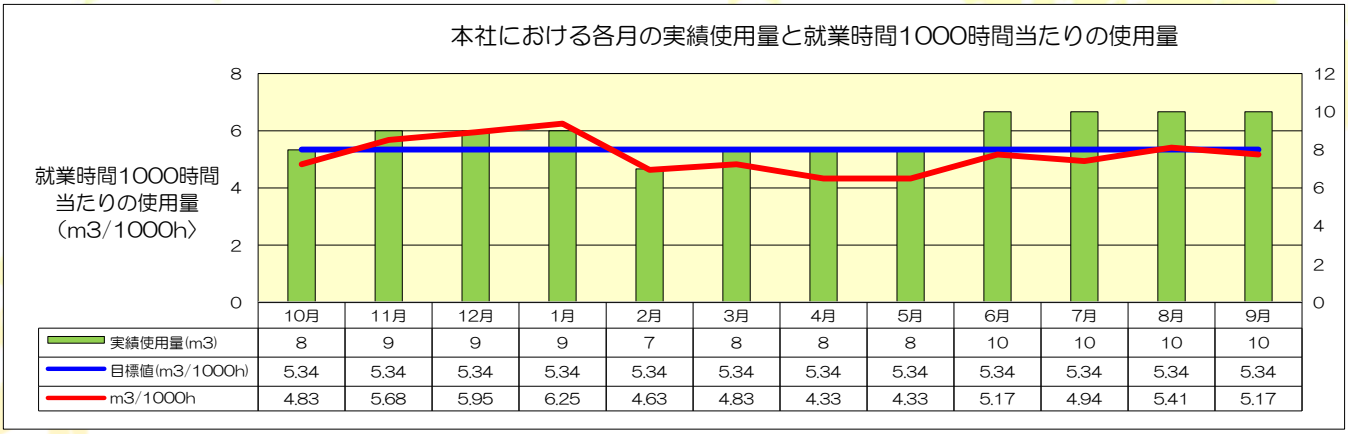
※評価基準：就業時間1000時間当たりの使用量（m³/1000ｈ）

★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1．節水の呼びかけ

1）本社の活動結果について

今年度目標：5.34　→　今年度実績：5.10　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(m3)	8	9	9	9	7	8	8	8	10	10	10	10
目標値(m3/1000h)	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34	5.34
m3/1000h	4.83	5.68	5.95	6.25	4.63	4.83	4.33	4.33	5.17	4.94	5.41	5.17

本社の水道水の使用は、昨年度同様、各月の使用量が7～10m³と大幅な削減がないことからもわかる通り、生活用水として使用されています。今年度の累積使用量は目標値に対し94.4%まで削減でき、本社の従業員における就業時間1000時間当たりの使用量も目標値に対し95.5%まで抑制でき目標達成出来ました。引き続き、節水活動を継続しますが大きな設備投資が無ければこれ以上の大幅削減は難しいと思うので、次年度以降もこの使用量を維持できるよう努めます。

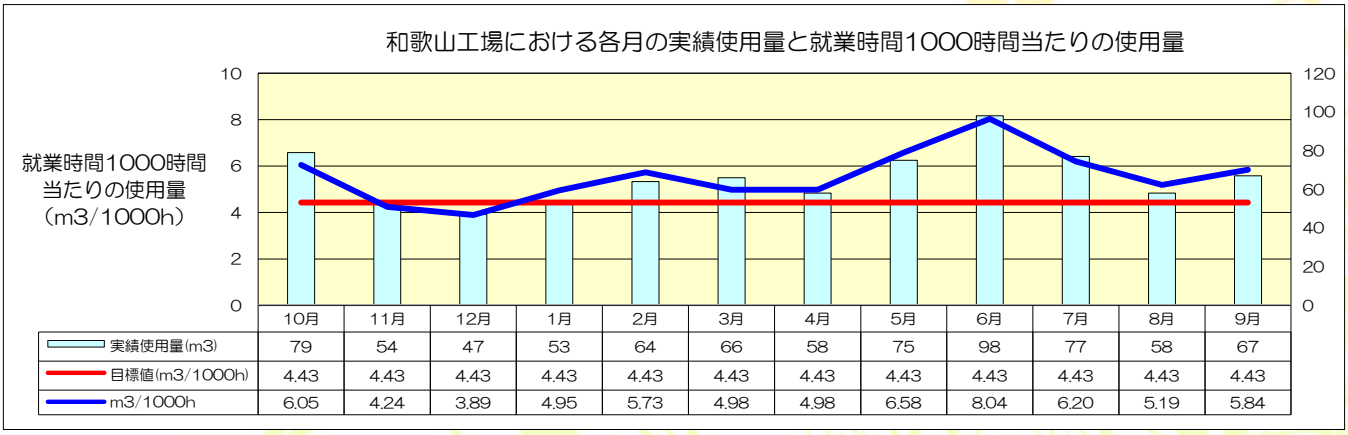
2）和歌山工場の活動結果について

※和歌山工場では、下記２項目も活動計画に追加しています。

1．洗浄工程の見直し、ルール化による使用量削減

2．雨水貯水ﾀﾝｸの増設と有効利用

今年度目標：4.43　→　今年度実績：5.55　　結果：目標未達成

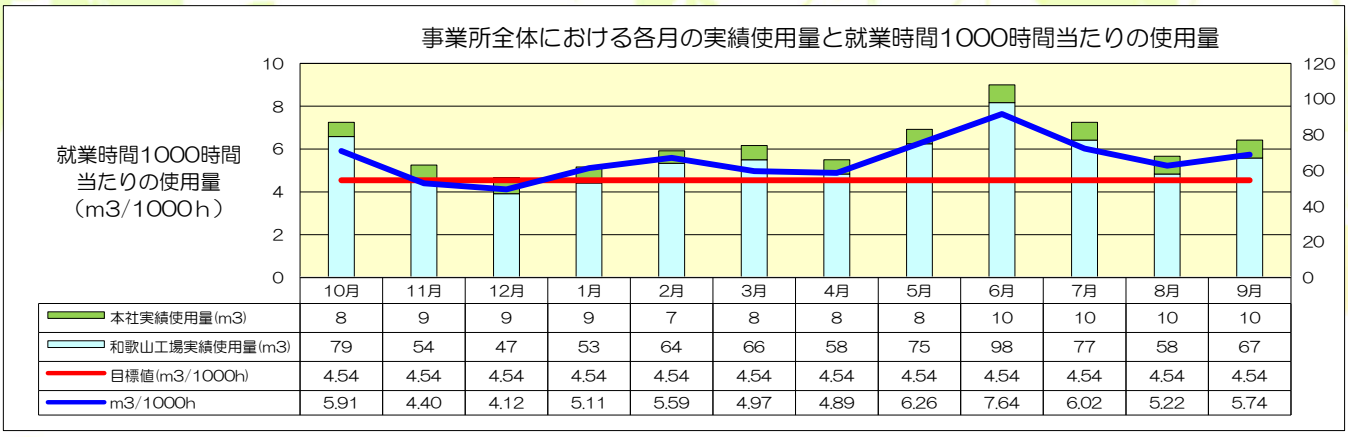


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(m3)	79	54	47	53	64	66	58	75	98	77	58	67
目標値(m3/1000h)	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43	4.43
m3/1000h	6.05	4.24	3.89	4.95	5.73	4.98	4.98	6.58	8.04	6.20	5.19	5.84

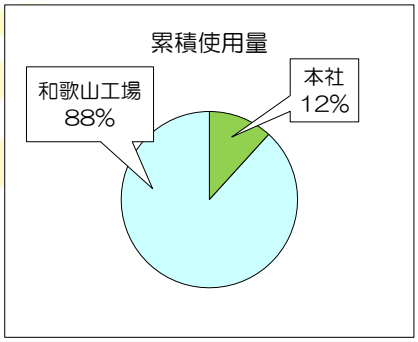
和歌山工場では、生活用水の他に受注した仕事内容により部材を水洗浄する工程が発生し水道水を使用します。この洗浄工程の発生により10月、5月、６月の使用量増加に影響しました。また、弊社では営業日は、従業員の水分補給が出来るようにと食堂や休憩室にお茶を沸かして置いているのですが、気温が高くなる夏期は沸かす回数が多くなり使用量増加に繋がります。今年度の夏期も近年同様に気温が高く使用量増加に繋がっています。今年度の累積使用量は、目標値に対し116%も増加し和歌山工場の従業員における就業時間1000時間当たりの使用量は目標値に対し125.3%も増加し目標未達成となりました。増加の要因は従業員の減少による就業時間の減少も影響していると考えます。なお、溶接機に必要な循環冷却水は井戸水を活用しています。

３）事業所全体の活動結果について

今年度目標：4.54　→　今年度実績：5.50　　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社実績使用量(m3)	8	9	9	9	7	8	8	8	10	10	10	10
和歌山工場実績使用量(m3)	79	54	47	53	64	66	58	75	98	77	58	67
目標値(m3/1000h)	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54	4.54
m3/1000h	5.91	4.40	4.12	5.11	5.59	4.97	4.89	6.26	7.64	6.02	5.22	5.74



今年度は、本社での累積使用量は目標値に対し94.4%まで削減できましたが、和歌山工場では洗浄工程による使用量増加により累積使用量は目標値に対し116%も増加しました。その為、事業所全体での累積使用量は目標値に対し112.9%も増加する結果となりました。評価基準の本社、和歌山工場の就業時間を合計した就業時間1000時間当たりの使用量は、目標値に対し121.1%も増加し目標未達成となりました。今後、生活用水については引き続き節水を推進し現状を維持出来るように努め、和歌山工場における洗浄工程時の流し放題の禁止など作業方法をルール化し使用量が最小限となるよう努めます。

●化学物質の使用量削減

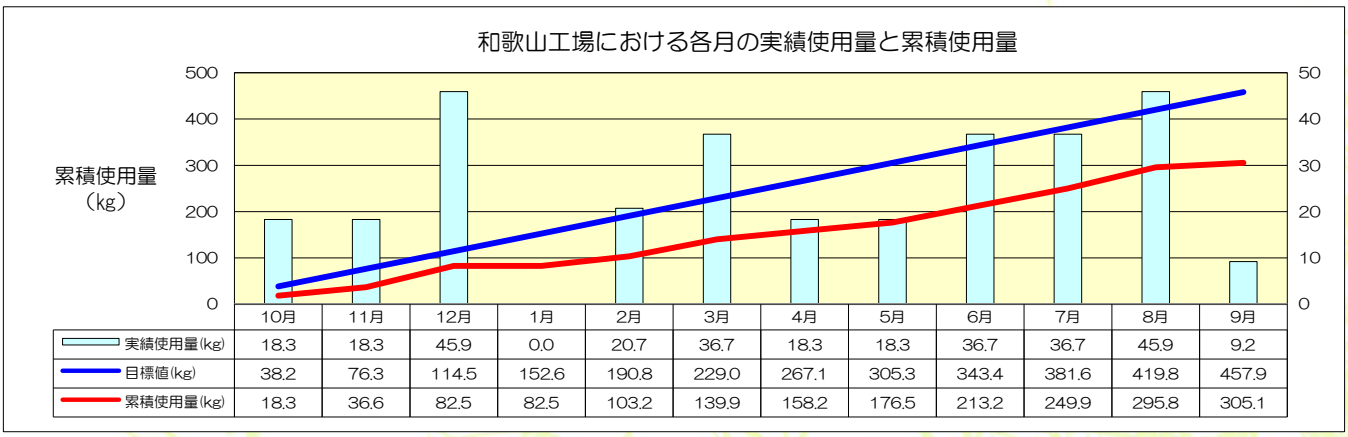
※評価基準：実績使用量（kg）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1. 代替材の使用量拡大
2. 化学物質の適正管理
3. 化学物質を大量使用場合の使用ルール決定

１）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：457.9　→　今年度実績：305.1　　結果：目標達成.



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績使用量(kg)	18.3	18.3	45.9	0.0	20.7	36.7	18.3	18.3	36.7	36.7	45.9	9.2
目標値(kg)	38.2	76.3	114.5	152.6	190.8	229.0	267.1	305.3	343.4	381.6	419.8	457.9
累積使用量(kg)	18.3	36.6	82.5	82.5	103.2	139.9	158.2	176.5	213.2	249.9	295.8	305.1

弊社での化学物質とは、和歌山工場で使用している洗浄剤に含まれる化学物質を指します。この洗浄剤は、板金加工で部材に付着した潤滑油やノコ切断や外注業者に依頼した機械加工品に付着した切削油を除去すために使用しています。今年度は、部材を浸漬させて洗浄する場合、ウエスをフィルター代りにし使用済み洗浄剤の汚れを濾すことで可能な限り使用できる改善提案が出されるなど、作業改善の効果もあり、目標値に対し66.6%まで削減でき目標達成となりました。今後は、PRTR法に該当しない代替品の使用も継続して推進し化学物質の使用量削減に努めます。

●可燃ごみの排出量削減

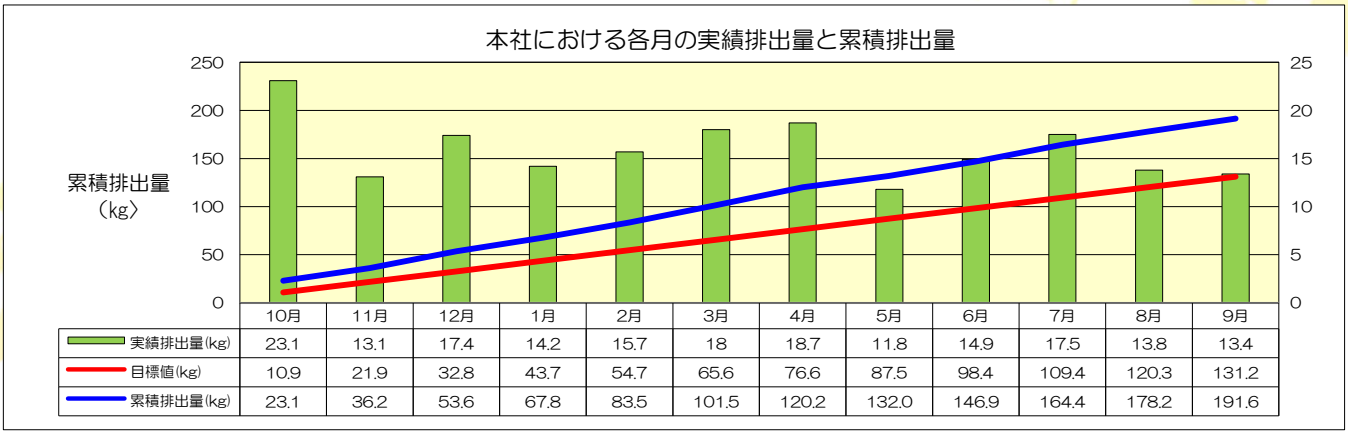
※評価基準：実績排出量（kg）

★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1．分別回収の徹底
2．1枚ベスト運動の推進
3．LAN有効活用による紙文書の削減

1）本社の活動結果について

今年度目標：131.2　→　今年度実績：191.6　　結果：目標未達成

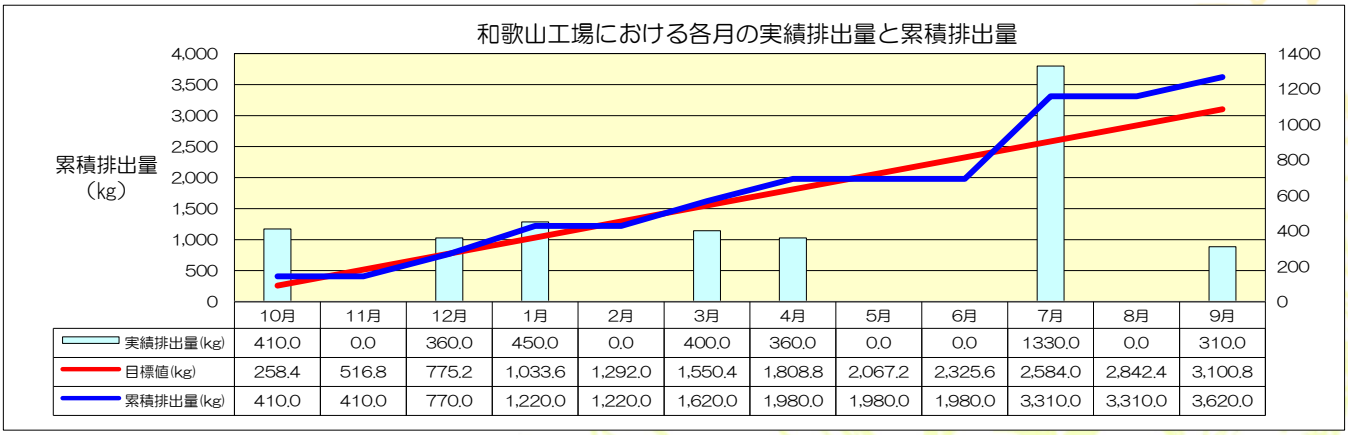


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績排出量(kg)	23.1	13.1	17.4	14.2	15.7	18	18.7	11.8	14.9	17.5	13.8	13.4
目標値(kg)	10.9	21.9	32.8	43.7	54.7	65.6	76.6	87.5	98.4	109.4	120.3	131.2
累積排出量(kg)	23.1	36.2	53.6	67.8	83.5	101.5	120.2	132.0	146.9	164.4	178.2	191.6

本社では、10月に事務所内の配置換えに伴い、思い切って不要書類を大量に廃棄したことで排出量が増加し、今年度の排出量は目標値に対し146%も増加し目標未達成となりました。また、仕事量の増加による配送時の段ボールなど梱包資材の廃棄も排出量の増加の要因になっていると考えます。なお、紙類は大阪市の条例によりシュレッダー裁断し回収されています。今後はLANの有効活用によるペーパーレス化を推進し、併せて可能な限り裏紙を使用することで可燃ごみの排出量の削減に努めます。

2）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：3,100.8　→　今年度実績：3,620.0　　結果：目標未達成



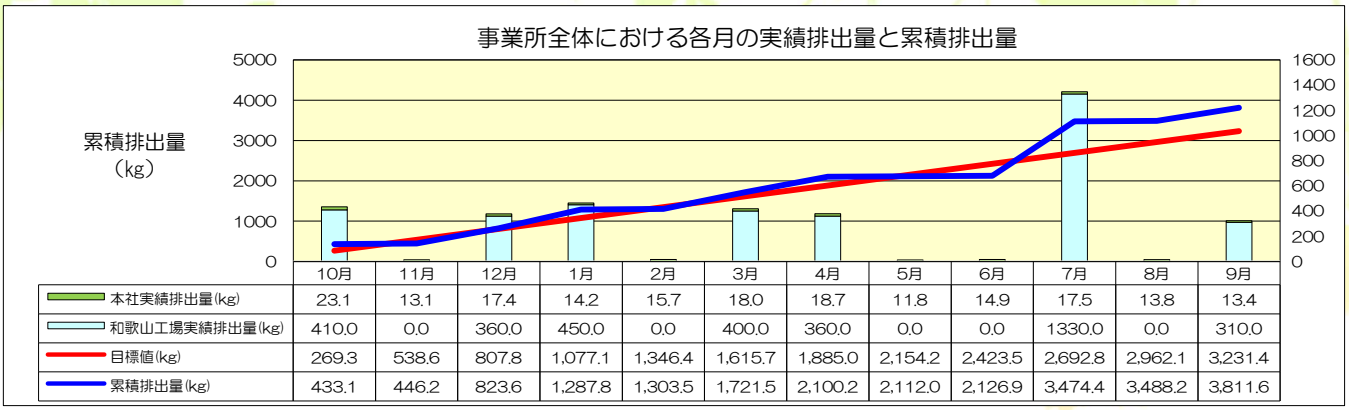
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実績排出量(kg)	410.0	0.0	360.0	450.0	0.0	400.0	360.0	0.0	0.0	1330.0	0.0	310.0
目標値(kg)	258.4	516.8	775.2	1,033.6	1,292.0	1,550.4	1,808.8	2,067.2	2,325.6	2,584.0	2,842.4	3,100.8
累積排出量(kg)	410.0	410.0	770.0	1,220.0	1,220.0	1,620.0	1,980.0	1,980.0	1,980.0	3,310.0	3,310.0	3,620.0

＜段ボール類の回収＞

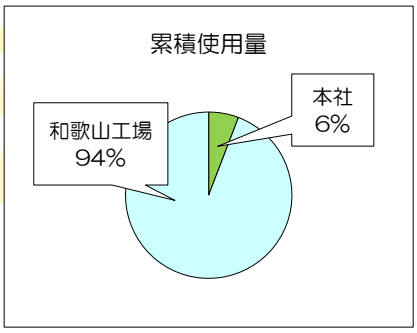
和歌山工場から排出される可燃ごみは主に図面などの紙類や仕入素材の梱包紙類、木材で、地域のごみ処理施設「環境センター」まで社用車で搬入しています。社用車に積載できる分まで保管するため、排出機会のない月があります。今年度は、一枚ベスト運動や、LANの有効活用によるペーパーレス、裏紙の再利用を積極的に進め排出量の削減に努めましたが、7月に腐敗した木材を大量に排出したことで一気に排出量が増加しました。今年度の累積排出量は、目標値に対し116.7%も増加し目標未達成となりました。今後は、図面などの紙類を資源ごみとして回収出来ないか回収業者に検討を依頼し排出量の削減に努めます。なお、従来より可燃ごみとして処理していた段ボールは、現在、資源ごみとして回収頂いています。

３）事業所全体の活動結果について

今年度目標：3,231.4　→　今年度実績：3,811.6　　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社実績排出量(kg)	23.1	13.1	17.4	14.2	15.7	18.0	18.7	11.8	14.9	17.5	13.8	13.4
和歌山工場実績排出量(kg)	410.0	0.0	360.0	450.0	0.0	400.0	360.0	0.0	0.0	1330.0	0.0	310.0
目標値(kg)	269.3	538.6	807.8	1,077.1	1,346.4	1,615.7	1,885.0	2,154.2	2,423.5	2,692.8	2,962.1	3,231.4
累積排出量(kg)	433.1	446.2	823.6	1,287.8	1,303.5	1,721.5	2,100.2	2,112.0	2,126.9	3,474.4	3,488.2	3,811.6



今年度は、本社で146%、和歌山工場でも116.7%とそれぞれ増加したことで事業所全体での累積排出量は118%も増加し目標未達成となりました。増加の最大の要因は、本社において整理棚の不要なファイル等を廃棄したことです。和歌山工場でも突発的な排出がありましたが、木材パレットは卸売業者に引取って頂いたり地域住民の必要とされる方に無償で譲る等して可能な限り排出量が削減出来るように努めます。なお、来年度は、和歌山工場において図面などの紙ごみのシュレッダー裁断を推進し更なる削減を目指します。事業所全体での排出量の割合は本社が6%、和歌山工場が94%を占めています。

●混合廃棄物の排出量削減

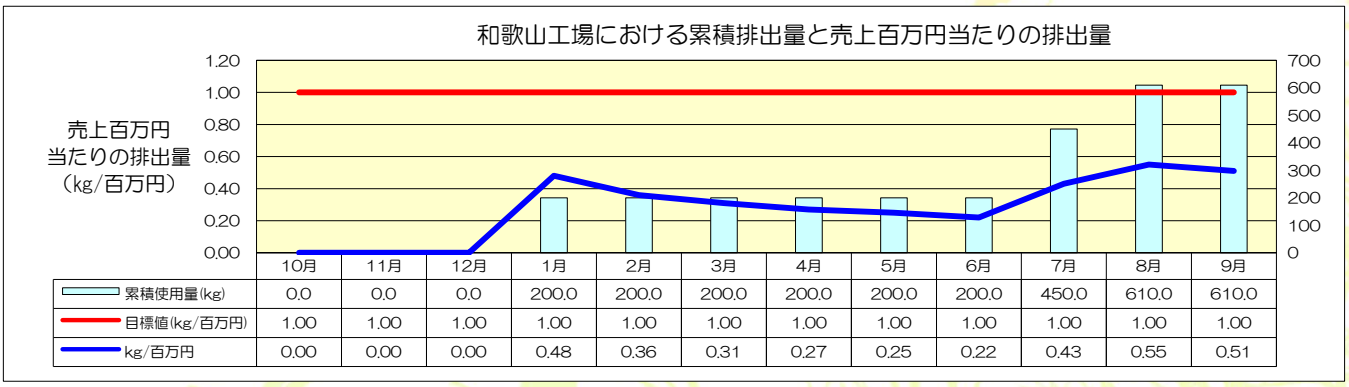
※評価基準：売上百万円当たりの排出量（kg/百万円）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1. ３Ｒの推進
2. 分別の徹底
3. サンダーディスクの長寿命化

１）本社の活動結果について

今年度目標：1.00　→　今年度実績：0.51　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
累積使用量(kg)	0.0	0.0	0.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	450.0	610.0	610.0
目標値(kg/百万円)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
kg/百万円	0.00	0.00	0.00	0.48	0.36	0.31	0.27	0.25	0.22	0.43	0.55	0.51

＜社用車での搬入＞

和歌山工場から排出される混合廃棄物とは日々の生産活動で発生するサンダーディスクなどの消耗品を指します。今年度は仕事量が増加しましたが廃棄量は少なく通年での排出機会は3回でした。弊社では、社用車で処理業者へ搬入するので、排出量が減ると軽油使用量の削減にも貢献できます。今年度の実績排出量は目標値に対し62.9%まで削減できました。評価基準の売上げ百万円当たりの排出量は、目標値に対し51%まで抑制でき目標達成となりました。今後も生産活動で必要な消耗品は長寿命化を図り、併せて分別回収を徹底し排出量の削減に努めます。

●廃プラスチックの排出量削減

※評価基準：再利用率（%）

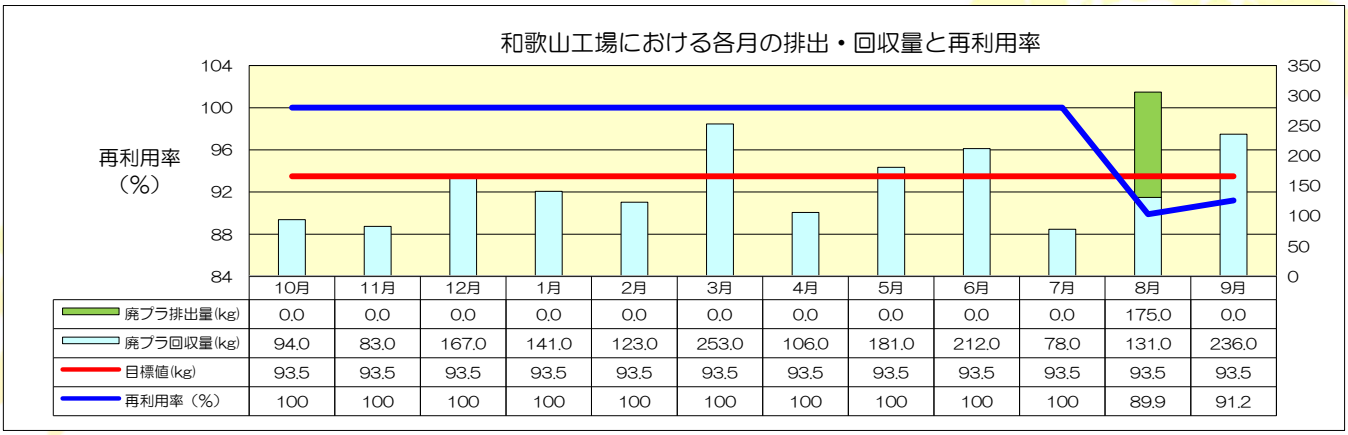
★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1．保護ﾃｰﾌﾟ以外の傷防止策による使用量削減

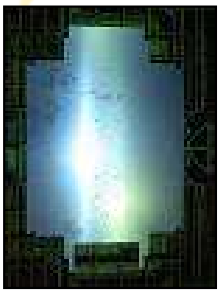
2．傷防止策の構築

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：93.5　→　今年度実績：91.2　　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
廃プラ排出量(kg)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	175.0	0.0
廃プラ回収量(kg)	94.0	83.0	167.0	141.0	123.0	253.0	106.0	181.0	212.0	78.0	131.0	236.0
目標値(kg)	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5	93.5
再利用率（%）	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	89.9	91.2



＜キズ保護テープ＞

弊社の廃プラスチックとは、和歌山工場における生産工程で部材にキズが入らないように貼っているキズ保護テープや梱包資材などのプラスチック製品を指します。製品が完成するまでの工程で、部材にキズが入らないようにすることはエコアクション活動開始当初からの課題で、お客様の製品に対する品質要求は年々高まっており、お客様の要求にお答えするための必需品となっています。製品が完成すると保護テープは剥がして廃棄となりますがあまり汚れていないものは回収されリサイクルされます。一方、溶接ワイヤのスプールはリサイクルできない為廃棄物処理業者へ搬入しています。今年度の再利用率は目標値に対し2.3ポイント下回り目標未達成となりました。弊社の廃プラスチックに対する削減対策は、これまでもこれからも永遠の課題です

●再加工材料費の削減

※評価基準：金額指標（%）

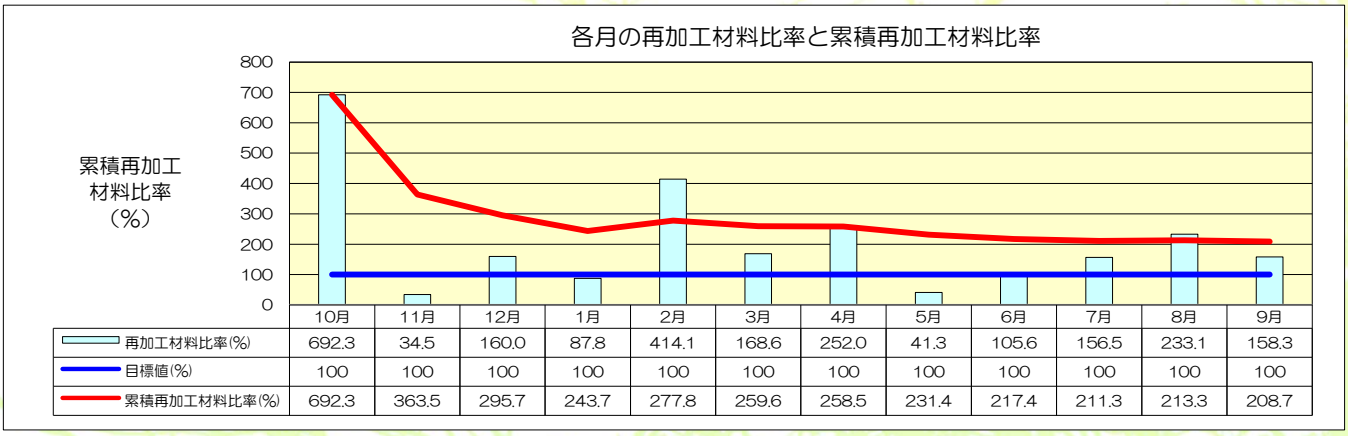
★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1．素材の歩留まり向上

2．加工ミスによる素材損出の削減

1）和歌山工場の活動結果について

今年度目標：100　→　今年度実績：208.7　　結果：目標未達成



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
再加工材料比率(%)	692.3	34.5	160.0	87.8	414.1	168.6	252.0	41.3	105.6	156.5	233.1	158.3
目標値(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
累積再加工材料比率(%)	692.3	363.5	295.7	243.7	277.8	259.6	258.5	231.4	217.4	211.3	213.3	208.7

弊社における再加工材料費とは、主に、和歌山工場において不良発生の為に本来なら必要としない再加工による材料費を指します。弊社では品質保証室の指導のもと作業後の自主検査の徹底や不良発生情報の共有などの活動は実践していますが不良発生の削減には至っておらず、再加工材料費の削減は永遠のテーマで年々増加しているのが現状です。今年度の再加工材料費は目標値に対し208.7%も増加し目標未達成となりました。

今後は、不良発生の原因の究明と再発防止対策の構築や製作時の注意事項などをまとめた資料を作成し次回受注時に活用するなどして再加工材料費の削減に努めます。

●梱包資材の購入量削減

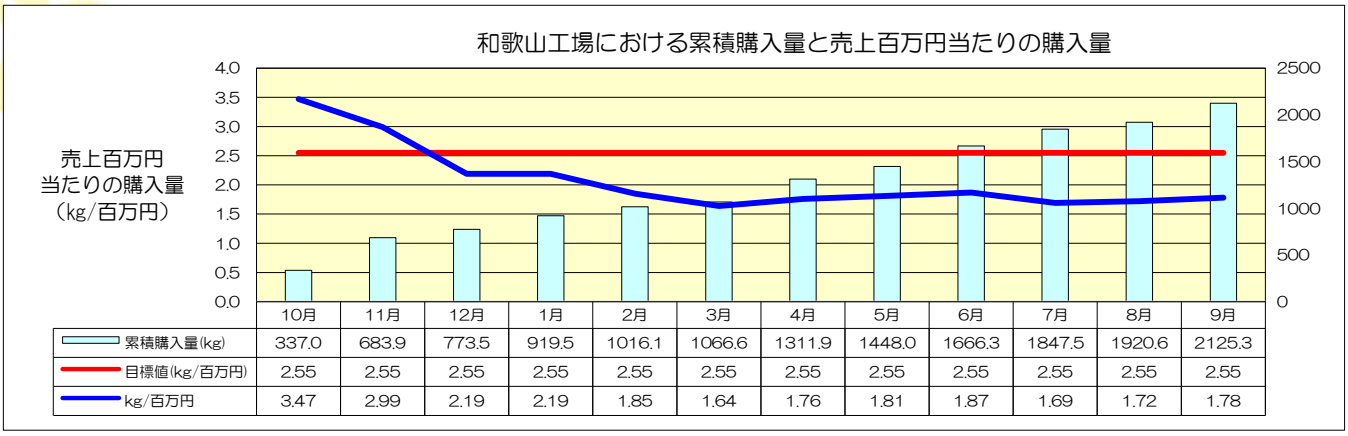
※評価基準：売上百万円当たりの排出量（kg/百万円）

★環境活動計画（和歌山工場のみ）

1. 外注先搬送時への通い台車の利用促進
2. 梱包の簡素化による使用量低減
3. 梱包資材のリユース促進

１）事業所全体の活動結果について

今年度目標：2.55　→　今年度実績：1.78　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
累積購入量(kg)	337.0	683.9	773.5	919.5	1016.1	1066.6	1311.9	1448.0	1666.3	1847.5	1920.6	2125.3
目標値(kg/百万円)	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55	2.55
kg/百万円	3.47	2.99	2.19	2.19	1.85	1.64	1.76	1.81	1.87	1.69	1.72	1.78

弊社では輸送中の傷発生やゴミの混入を防止するため、エアーキャップ等の梱包資材で製品を養生した上で出荷しています。しかし、これら梱包資材は納品後、お客様のところで廃棄物になってしまうため、可能な限りの簡易包装を心がけ廃棄物削減に努めています。弊社のような多品種少ロットの生産形態では製品のサイズもまちまちで、数量にもばらつきがあるため、定格のダンボールでは賄えず、エアーキャップ等柔軟に対応できる資材が有効な梱包方法となっています。また、輸送中の傷発生防止に有効的な資材として、廃プラスチック項目でも挙げたキズ防止テープを使用する場合もあります。弊社での梱包の一例（蓋付き容器）を下記にて紹介します。

なお弊社と外注先間の部材のやり取りに際しては、部材のサイズや形状に合わせて製作した通い台車を繰り返し活用しています。今年度の累積購入量は、目標値に対し85.5%まで削減でき売上百万円当たりの購入量は目標値に対し69.8%まで削減でき目標達成出来ました。

①工程内で使用していた傷保護テープを剥がし洗浄剤で汚れをふき取ります。

②汚れを拭き取り傷保護テープを貼ります。

③汚れを拭き取った蓋を載せ傷保護テープを貼ります。

④最後にエアーキャップで梱包します。

●グリーン購入金額比率の向上

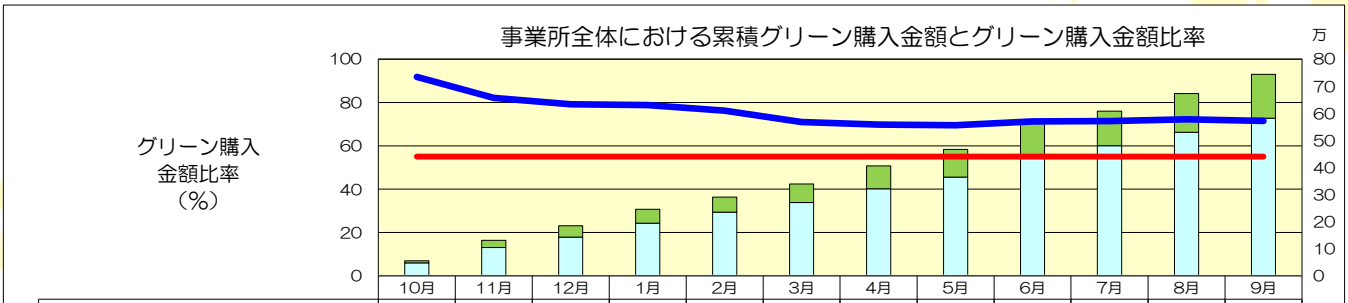
※評価基準：金額指標（%）

★環境活動計画（本社・和歌山工場共通）

1. グリーン購入金額の比率の向上
2. グリーン対応商品の周知
3. 環境ラベルの周知

1）事業所全体の活動結果について

今年度目標：55　→　今年度実績：71.5　　結果：目標達成!!



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本社の累積グリーン購入金額(円)	8,190	26,394	41,784	51,184	55,142	68,232	84,519	102,327	119,575	127,926	143,302	162,130
和歌山工場の累積グリーン購入金額(円)	47,347	104,550	142,859	194,276	235,199	270,587	321,101	364,357	442,072	480,300	530,013	581,967
目標値(%)	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0
グリーン購入金額比率(%)	91.8	82.1	79.2	78.8	76.2	71.0	69.8	69.5	71.3	71.4	72.2	71.5

弊社は、ボルト類やフランジ等の既製の金属製品や事務用品まで様々な商品を購入しているため、お客様の購入指定がない場合は優先して環境対応商品を選択しますが、全ての購入品に対して環境対応製品を購入することは出来ません。今年度における事務用品の購入を対象とした本社のグリーン購入金額比率は78.3%、和歌山工場では69.8%とそれぞれ目標値よりも上回りました。事業所全体での購入比率は、71.5%となり目標値に対し16.5ポイントも向上し目標達成となりました。引き続き、可能な限り環境対応商品の購入を優先してグリーン購入金額比率の向上に努めます。

●ホームページにてSDGsの活動紹介ページを作成

令和元年７月23日、弊社のホームページ上にSDGsの取組内容を発信するページを設けました。

エコアクション21と健康経営優良法人の活動をリンクさせ、SDGsへの普及に少しでも貢献できるよう活動を進めています。

弊社のホームページURLがこちらです。

「https//sakaguchi-ss.co.jp/」

ぜひ、ご覧ください。

なお、外務省のホームページから閲覧できるよう登録申請中です。

健康経営優良法人の取組み

●「がん対策推進企業アクション」の推進パートナー企業に登録しました。

令和元年8月8日、いつまでも、社員が元気に働き続けられる企業を目指すため厚生労働省委託事業である「がん対策推進企業アクション」の推進パートナー企業として登録しました。
　この登録により、がん対策に関する情報を発信していけたらと考えています。

※がん対策推進企業アクションの詳細は以下をご覧ください。
https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/

●AIG関西オープンセミナーにパネラーとして参加しました。

平成31年1月23日、大阪市にあるグランフロント大阪コングレコンベンションセンターで開催された「2018年度 第1回AIG関西オープンセミナー（主催：AIG損害保険㈱）」に、パネラーとして出席させて頂きました。
　同セミナーはAIG損害保険㈱の代理店及び同社社員を対象としたもので、今回のテーマはACTIVECARE、健康経営への取組でした。
　弊社は、既に健康経営に取り組んでいる企業として京立商事㈱宮川社長様と共に登壇し、取組のきっかけ、メリットなどを、200名を超える参加者の皆さまにお話しさせて頂きました。パネルディスカッションの後たくさんの質問もいただき、健康経営に対する関心の高まりを感じた一日でした。

●第11回 歩こう会を開催しました。

昨年、全国健康保険協会大阪支部に「健康宣言」を行い、従業員が健康で元気に仕事に取り組めるよう健康経営を推進するなかで、平成30年10月13日、第11回歩こう会を、秋晴れのさわやかな空の下で開催しました。今回のコースは有田川町と紀美野町の境にある札立峠を出発して紀美野町の生石神社から生石高原を回る約13kmを歩きました。遥かに連なる紀伊山地の山並みや、湯浅湾が一望できる生石高原の景色には圧倒される思いでした。

エコ活動への取組み

●改善提案の創出

　弊社は、作業者個人やQCサークルが独自に考案した改善提案を受付ける「改善提案制度」を設けています。一例として、今年度の最優秀改善提案を受賞したQCサークル「レインボー」の「NCターレットパンチプレスのコンベア作成」を紹介します。改善提案制度は作業の効率化を通じてエコ活動の目標達成にもつながる活動です。

〇問題点：長時間の自動運転中に、抜きカスが受け皿に満遍なく広がって落ちないため、タレットまで盛り上がってします(左の写真)。この為、夜間や休日の自動運転の際には、受け皿が一杯になる時間を見計らって、そのためだけに出社する必要があった(多い時で2、3回)。

※問題点写真
抜きカスが受け皿に満遍なく広がって落ちないため、タレットまで盛り上がり詰まってしまう。

〇改善点：別装置(レーザー加工機用)で使用していた処分予定のコンベアを再利用した。

処分予定のコンベアを改良

※改善点写真：処分予定のコンベアを改良し再利用する。

〇結果：1．日常的に抜きカスの詰まりが改善された。
2．コンベアの設置により受け皿の設置場所が従来よりも外側に置け、リフトによるで交換作業が出来るようになった。
3．夜間などでも抜きカスの詰まりが格段に解消された。これにより長時間の自動運転が可能になり、夜間・休日の抜きカス処理だけのための出勤回数を大幅に削減することができた。
4．製作費用が約10万円に抑えられた。
※新規購入の場合、77万円の投資が必要

※結果写真：タレットから出た抜きカスを、コンベアで動かして受け皿に貯められるので詰まりが解消された。

●インクカートリッジ回収ボックスの利用開始

令和元年5月27日、アスクル様からインクカートリッジ回収ボックスを提供頂き和歌山工場にて利用を開始しました。
　弊社のプリンターのインクはアスクル様で購入しており、使用済みのカートリッジは、ゆうパック等の依頼時に地域の郵便局の窓口に設置されている回収箱に入れていました。
　直接回収頂くことでリサイクル品として生まれ変わるそうです。

社員教育の実施

●エコアクション活動の中間報告と結果報告を実施しています。

和歌山工場にて11月と5月に開催しているQCサークル活動報告会の後、環境経営計画に基づく管理項目について社長より報告を実施しています。弊社には、QCサークルが13サークルあり、それぞれの活動成果についてパワーポイントで資料を作成し報告しています。11月は和歌山工場の食堂で、5月は和歌山工場近隣にある「しみず会館」にて実施しています。

＜11月の中間報告＞

＜5月の中間報告＞

管理項目の各月毎の結果はそれぞれグラフにまとめ本社では事務所内にて掲示、和歌山工場では食堂での掲示と併せて従業員に少しでも周知できるように左記写真のようにファイルに綴じ回覧しています。

1社1元気技術の登録

●和歌山県に1社1元気技術が登録されました。

令和元年8月21日、和歌山工場の「アルミ・ステンレスの板金加工技術」が和歌山県の１社１元気技術に登録されたことを受け、和歌山工場にて登録証が授与されました。

　和歌山工場では、平成20年度の「アルミ・ステンレスの溶接技術」が登録されて以来、2回目の登録です。

左記写真は、坂口社長(左)と4月に就任した下垣工場長(右)

1社1元気技術とは、和歌山県内の中小企業が有する優れた技術、広く知られていないけれどもこだわりの技術を登録し、県のホームページに掲載し、その技術を紹介することにより、企業の受注機会の増大を促進することを目的に実施します。県内に本社又は事業所を有する中小企業で

1.特許を有する、または出願中の企業
2.特許を有していないが、特許と同等の技術を有する企業
3.他社の追随を許さない独自の技術を有する企業

に該当する企業が対象となります。

地域社会への取組み ～その１～

●本社で「西成しごと探偵団」を開催しました。

うまく組み立てられるかな？

ミッション達成!!

令和元年8月23日、大阪府中小企業家同友会・西成住之江支部が主催する「西成しごと探偵団」に参加しました。

　このイベントは、小学生に地元企業のことを知ってもらい、働く魅力を感じていただくことが目的で、今回が初めての開催でした。各企業は、自社に関する「ミッション」を用意し、小学生に仕事を体験してもらうという内容で、弊社は「投票箱を組み立ててもらおう!!」を企画しました。

　投票箱の組立は、小学生には少し難しいかなと心配していたのですが、すぐに構造を理解して素早く組立てることが出来ました。また、保護者の方にも楽しんで頂け良かったです。

　来年以降もこのイベントは継続するようなので、次回はもっと良いミッションを用意できるように頑張ります。

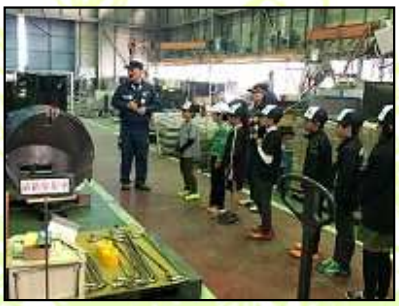
※弊社の投票箱は、選挙における投票所

●和歌山工場で
地元小学生の工場見学を実施しています。

平成30年11月28日、地元の小学3年生の皆さんが見学に来てくれました。

　今回は八幡小学校から6名、久野原小学校から1名、先生が3名訪問されました。初めに前任の道上工場長が工場について説明、皆さんパンフレットを見ながら工場でこんなものが作られているんだと驚いている様子でした。

　説明後、実際に工場内を見学してアルミトレーやレーザー加工機やNCターレットパンチプレスの動きを興味深く見ていました。



地域社会への取組み ～その２～

●本社で飼育しているメダカをお譲りしました。

令和元年7月3日、本社で飼育しているメダカを、以前から欲しいと言われていた外注先の方にお譲りしました。
大変、喜んで頂きました。

●MORINO PROJECTに参加しました。

平成30年12月18日、本社にてAIG損害保険株式会社様との契約更新をさせて頂いたことで「MORINOPROJECT」に参加することになり、苗木が植樹されることの証明書が届きました。

MORINO
PROJECT

●献血に協力しました。

令和元年5月27日、今年度も和歌山工場に献血車が来場され、従業員が献血に協力しました。
今回は23名が協力しました。

●かもめタウン大作戦へ協賛しました。

令和元年8月21日、今年度もかもめーる(暑中・残暑見舞はがき)で、特殊詐欺被害防止を呼びかける有田川町内郵便局の活動「かもめタウン大作戦」に協賛させて頂き、町内の各家庭へ届けられました。

●有田川町消防出初式に参加しました。

消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う組織です。近年、地方の消防団員の減少が問題とされる中、弊社和歌山工場の従業員のうち27名が地元の消防団に所属しています。平成31年1月10日に開催された有田川町消防団の出初式に、弊社所属の消防団員も駆けつけました。

●有田川町認定第1号の消防団協力事業所に認定されました。

この度、和歌山工場は有田川町認定第1号の消防団協力事業所認定企業に選ばれました。

平成31年4月19日、和歌山工場において有田川町長、有田川町消防長、有田地域消防協会長ご臨席のもと、交付式が開催されました(本レポートの表紙写真です)。

「消防団協力事業所表示制度」は、勤務時間中の消防団活動への便宜や従業員の入団促進など、事業所として消防団に協力し、社会貢献が認められる事業所を消防庁が認定する制度です。

●エコキャップを有田川町社会福祉協議会清水事務所に提出しました。

平成31年2月4日、皆様に御協力頂き集めたエコキャップ12,436個を有田川町社会福祉協議会清水事務所に届けました。

弊社では、和歌山工場の食堂やペットボトル回収箱の横にエコキャップ回収箱を設置しています。

また、弊社の活動を有田川町社会福祉協議会で発行されている広報誌に掲載されたことで、地域住民の方々からもキャップを提供頂け弊社に届けて頂いています。

地域のみなさま御協力ありがとうございます。

地域社会への取組み ～その３～

●雇用貢献事業所の表彰を受けました。

弊社和歌山工場は1967年に有田川町(旧清水町)に建設され、以後今日まで過疎地の雇用を微力ながら支えてきました。その貢献を評価頂き、平成31年2月2日に開催された「有田川町商工会合併10周年記念式典」において、有田川町より、「雇用貢献事業所表彰」を頂戴致しました。
また同日、板金組立課の堀江さよ子さんは「模範従業員表彰」を受賞しました。

●イベントによる場内駐車場の提供

令和元年5月19日、和歌山工場の近くにあるふれあいの丘で開催されたイベント「クラシックラン」において場内を駐車場として提供しました。

●第22回環境コミュニケーション大賞優良賞受賞

第22回環境コミュニケーション大賞(主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム)において、弊社の「平成28年度 環境活動レポートが、環境経営レポート部門の優良賞に選ばれました。同賞受賞は今回で2回目になります。
平成31年2月20日、品川プリンスホテルにおいて開催された表彰式に出席しました。

＜表彰式での記念写真。右が事務局の平林です＞

＜受賞した平成28年度環境活動レポート＞

緊急事態訓練の実施

●火災避難訓練及び消火器取り扱い講習を実施しました。

＜火災発生連絡＞

平成30年10月27日、和歌山工場にて火災訓練を実施しました。
午後3時過ぎ、火災訓練開始の放送を合図を出し全従業員が事務所前駐車場に集合するまでの時間は約3分という結果でした。
全体訓練の後には、消防署の指導のもと、女性社員を中心に消火器(練習用)の使用訓練も実施しました。
　訓練を指導頂いた地域の清水消防署の方からは、消火器を持って火災現場に向かう場合は、必ず大声で「火事だ～」と皆に知らせることが重要なのだそうです。また天ぷら油に火が燃え移った時には直接油に消火器を向けるのではなく、いったん壁に消火剤を当てることがポイントとのことでした。
今後も毎年この時期に、定期的に火災訓練を実施していきます。

＜初期消火開始＞

＜避難完了＞

＜消火器講習＞

●普通救命救急講習を開催しました。

令和元年9月12日、和歌山工場で地域にある清水消防署の方に御指導頂き、救命講習が行われました。
　当日は17名の方が参加し、救急車が来るまでの救命処置が非常に重要で有る事や、又救急車が到着する迄の心肺蘇生の方法・AEDの操作方法を教えて頂きました。

参加者全員が実際に心臓マッサージや人口呼吸・AEDを使った救命作業を学ぶ事ができました。

弊社の活動が記事になりました。

●鉄鋼新聞に弊社の活動が掲載されました。

平成31年3月8日、第22回環境コミュニケーション大賞で環境経営レポート部門優良賞を受賞
令和元年7月25日、和歌山工場の「アルミ・ステンレスの板金加工技術」が和歌山県の1社1元気技術に登録されたことが掲載されました。

環境コミュニケーション大賞
坂口製作所、優良賞受賞
環境経営レポート部門で

坂口製作所の「アルミ・ステンレスの板金加工技術」
和歌山県の「1社一元気技術」に認定

●広報「ありだがわ」に弊社の活動が掲載されました。

有田川町の広報誌「ありだがわ」4月号の「まちのわだい」コーナーに、環境コミュニケーション大賞優良賞受賞の記事が掲載されました。また、4月号の「まちのわだい」コーナーに、消防団協力事業所認定第1号の記事が掲載されました。

まちのわだい
坂口製作所
第22回環境コミュニケーション大賞で優良賞受賞

まちのわだい
坂口製作所を
消防団協力事業所表示制度の
認定第1号に

●広報誌「社協 有田川」に弊社の活動が掲載されました。

取り組みのご紹介とご報告
エコキャップ推進協会より受領書が届きました!!

有田川町社会福祉協議会で発行されている広報紙「社協有田川」2019年3月号に弊社のエコキャップ運動を掲載して頂きました。
　弊社は、引き続きエコキャップ運動を継続して行きます。

環境関連法規制等のとりまとめ

環境関連法規制等への違反はありません。また、関係当局により違反等の指摘及び近隣住民からの苦情は過去3年間ありません。

環境関連法規制の名称	該当する要求事項	該当する設備・項目
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・委託契約書	・混合廃棄物の委託管理 ・廃油の委託管理
	・保管基準	
	・産業廃棄物管理票の発行と保管	
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	
	・特別管理産業廃棄物管理責任者の選任	
騒音規制法	・特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機、コンプレッサー等
	・基準値（65db）の遵守	
振動規制法	・特定施設設備の届け出	・液圧及び機械プレス、せん断機
	・基準値（65db）の遵守	
フロン排出抑制法	・廃棄、修理時の回収義務	・業務用エアコン
	・簡易定期点検、定期点検の実務	
浄化槽法	・浄化槽の保守点検実務	・浄化槽
	・年1回の浄化槽定期点検実務	
消防法	・少量危険物貯槽所の届け出	・灯油、塗料、シンナー貯蔵取扱い、火災報知器、消火器
	・保管量の遵守	
	・消防施設点検と報告	
	・防火管理者の選任	
毒物劇物取締法	・施錠、劇物表示、飛散漏れ防止	・洗浄剤

代表者による全体の評価と見直し

- 今年度は長年の懸案だった工場照明のLED化をようやく実施できました。これにより大幅な削減効果が確認できましたので、電気使用量の削減については改めて目標数値を検討ください。あわせて未だ蛍光灯のままになっている照明器具についても、できるだけ早急にLED化を進めます。
- ガソリン、軽油の使用量については、実績使用量を抑えつつ燃費を目標に設定し、エコドライブを推奨することをご検討ください。
- 今年度は売上、利益においても増収・増益を達成できました。ただし次年度については世界的な景気減速もあり、このままのペースで進捗するかは予断を許さない状況です。売上原単位評価項目については次年度予算と併せて検討ください。
- 基準年度に比べ社員数が減少していることから、総就業時間(従業員数×、各従業員の就業時間)では、どうしても評価が低めになってしまいます。期間内の就業日数割で評価するなど、新たな評価方法を検討ください。
- 廃プラの項目で挙がっている溶接ワイヤのスプールについても、再利用の可能性を調査検討ください。
- 今年度は、環境コミュニケーション大賞の優良賞を受賞しました。弊社の同賞受賞は今回で2回目となります。今後も受賞企業の名に恥じない活動を展開していきましょう。
- 事務局の負担軽減も大きなテーマです。審査人からご提案いただいた「全員参加型」の活動展開も進めていきましょう。
- 会社としての大きな課題の一つが人材の確保です。現在、自治体や他の会社とも協力して地元に独身寮を作る計画を進めています。坂口が元気になって雇用を拡大することは、地域の活性化にも繋がります。全国の地域活性化のモデルになるような取組を進めていきましょう。

TRADE MARK

SAKAGUCHI SEISAKUSHO